『氷の模様が違う！』　　５歳児　２月　伏見こども園

エピソード

この日はプールの水も凍るくらいの寒さでした。戸外に出ると、園庭のあちらこちらで「氷見つけた！」と言う声がして、氷集めが始まりました。氷を集めたり見せ合ったりする中で、Ａくんが「この氷見て。線みたいな模様がある」と保育者に見せに来ていました。

保育室に戻り、氷を見つけている様子や見つけた氷の写真をテレビに映してみんなで見ていると①「この氷大きいな」「なんかプツプツしてる」と気付いたことを話し始めました。①「このプツプツは何だろう？」と尋ねると「サイダーの泡みたい」「知ってる。それって炭酸やで」「炭酸って空気やねん。凍るときに空気が入るとこんな模様になると思う」と知っていることを友達に伝えていました。②次の写真を見ると「顔が見えてる！」「模様がないやん」「ツルツルや」とさっきの氷と違うことに気付きました。「じゃあ、これは空気が入ってなかったんかな」「だから泡みたいな模様が無いのかな」と考えていました。③次の写真の氷はＡくんが見つけた線のような模様のある氷でした。「横から見える模様や」「氷が分厚い」「なんか線みたいやな」「霜柱みたい」と、また違う模様に驚いていました。「何でこんな模様になるんやろう」と不思議そうな表情を浮かべながら「空気で変わるのかな」「凍る形じゃない？」「場所でも変わるのかも」と考えたり予想したりする姿がありました。「難しいなぁ」と答えは出ませんでしたが、氷の模様の違いに面白さを感じていました。

子どもの育ちや学び

①プツプツ丸い気泡が入った氷

・気泡の形からサイダーの泡を思い浮かべ、炭酸→空気と知っている知識を並べて、氷に模様ができる過程を予想する。

・友達の気付きや知識を言葉で繋いでいく。

②模様の無いツルツルの氷

・①の氷と見比べることで違いに気付く。

・①の氷は空気があるから模様ができると考えたため、模様がないのは凍るときに空気がなかったからだと考える。

③線のような模様の氷

・氷を横から見ることで厚みに気付く。

・線のような模様を「霜柱みたい」と知っている氷の形に例える。

・模様の形や見え方の違いに驚きや不思議さを感じる。

・氷の写真を順に見ることで、友達が見つけた氷を見比べて違いに気付く。
・違いから原因や要因を予想したり考えたりし、友達に伝える。
・同じ氷でもよく見てみると模様が違うことに気付き、不思議さや面白さを感じる。

保育者の思い

・Ａくんが氷の模様に気付いたことをきっかけに、同じ氷でも見比べてみることで、違いを見つけ、新たな面白さを感じることにつながればいいな、と思い、写真を映すことで気付きを共有できるようにしました。

・①の氷の気泡を見て「サイダーの泡みたい」と表現したところが子どもならではだな、と感じると同時に、炭酸→空気と連想されていったことに、今までの経験や知識がすぐに言葉で出てくることが増えてきたと感じました。

・なぜ模様ができるかの答えを見つけるのではなく、不思議さや面白さからの気付きを伝え合ってほしいと思いました。

家庭だったら

・戸外で氷ができる日は限られていますが、車や草花の霜や、飲み物に入れる氷でもよく見てみると、それぞれ模様の違いが見つかるかもしれません。模様が何に見えるか例えてみるのも面白いかもしれませんね。